

一茶ゆかりの里通信

No. 35



平成26年12月15日発行

長野県上高井郡高山村大字高井 5161-1

歴史公園信州高山 一茶ゆかりの里 一茶館

TEL(026)248-1389 FAX(026)248-8913

http://kobayashi-issa.jp

印刷所 (株)オフセット 長野県須坂市墨坂南 1-17-3
(026) 245-6338



久保田家から

一茶の資料のすべてが

寄贈されました

このたび久保田ひろ志様から、現在、一茶館に寄託している一茶の遺墨及び関連資料の全てを、高山村に寄贈したいとの申し出をいただき、平成二十六年六月十五日に受納式を行い寄贈していただきました。



寄贈された資料

- ・一茶遺墨42点
父の終焉日記、花春帖（浅黄空）、筆記（俳諧寺抄録）、対幅軸、付木、連歌額、掛け軸、短冊、菊明の署名本、所蔵本書入れ、貼り交ぜ額他
- ・一茶関連資料19点
あられぞら、正風芭蕉舄奥義傳秘蘊集、文政版一茶発句集、類題俳諧歌集、あとまつり、杖の竹、たねおろし、高井野連句会「春」、高井野連「哥儂半折」、春耕筆録、束松露香手紙他
- ・一茶の俳友、門人等の短冊およそ250点

久保田家六代目当主であつた久保田春耕は、北信濃における一茶の門人であり、最も重要な後援者の一人でした。そのため、久保田家には一茶の遺墨が数多く伝えられてきました。

久保田ひろ志さん（九四歳）は、長野県中野市赤岩出身で十二代目の久保田家当主であつた吉次郎さんと結婚されましたが、吉次郎さんが若くして急逝され、これまで女手一つで、久保田家を引き継いでこられました。

平成八年の一茶館の竣工時には、一茶が一三六日間逗留した「離れ家」を高山村に寄贈されると共に、久保田家に伝えられた一茶の真蹟と関連資料を寄託されました。そして、このたびその全部を村に寄贈していただきました。

一茶に対するひろ志さんの情熱と思入れがなければ

「ぬり絵で楽しむ一茶の俳句」完成

一茶の俳句の中から動物や子どもの俳句を中心に二十一句を選び、絵をつけた塗り絵の冊子ができました。二万冊製作し、その半分は、幼稚園・保育園・デイサービスなどの高齢者福祉施設などに寄贈し、残りは来館者に配布しています。完成して一ヶ月足らずで



四千五百冊も配布することができました。

冊子の企画と製作をした「一茶に学ぶ会」では、今後、塗り絵コンテストや冊子を使った初心者向け俳句講座などを開催し、俳句の普及と一茶館の活性化に役立てる計画です。

冊子の製作資金は、長野県（地域発元気づくり支援金）と趣旨に賛同する企業・団体、個人の皆様の協力金でまかなうことができました。会では今後、増刷をめざして協力金の募集を継続しています。

協力金提供者

（十一月末現在）

オリオン機械株式会社、山田記念朝日病院、信州高山温泉郷観光協会、大岩山普願寺、株式会社かたぎり、その他個人多数。

第十八回 一茶ゆかりの里俳句大会

主催 高山村・高山村教育委員会・高山俳壇
 期日 平成26年10月19日(日)
 選者 長野県俳人協会 会長 東福寺碧水
 副会長 近藤柊雨・倉科繁登・海野良三・山口斗人(敬称略)
 応募人数 140名
 応募句数 420句

一茶ゆかりの里大賞	千枚田夜は銀河の水を引く	松本市	福田喜美子
長野県教育委員会賞	寒林に全き日向ありにけり	長野市	木原 登
高山村教育委員会賞	死神を欺く老のサングラス	三重県	濱口 小波
長野県俳人協会賞	万緑や足湯に反らす指の先	小布施町	栗原ヒサエ
信濃毎日新聞社賞	松虫草活けてまだある野のひかり	高山村	高野 悠子
須坂新聞社賞	がらんぼや溪の昏さを曳いて来る	長野市	山崎あさみ
高山村文化協会賞	保育器の児は笑み浮かべすみれ草	中野市	高橋 次男
信州高山温泉郷観光協会賞	父の日に父の終焉日記を観る	須坂市	高野 一志
高山村公民館賞	お供への最中を貰ふ夏座敷	須坂市	清水 章
高山俳壇賞	夏草や外地に果てし兵の墓	長野市	堀口よりを
高山俳壇賞	炎昼に落としてきたる己が影	小布施町	小林 京子
高山俳壇賞	秋水を添へて木地師の砥石かな	須坂市	竹内 雪絵
高山俳壇賞	紅梅の香の泌む雨となりにけり	三重県	奥中 和子
高山俳壇賞	戒名も墓もいらぬぞ目刺焼く	大阪府	嶋岡 柳花
高山俳壇賞	郭公や細く開けおく喪の障子	長野市	水上 孤城
高山俳壇賞	思ひきり高く活けたり月の供華	愛知県	平野 辰美
高山俳壇賞	余所者の知り尽くしたる茸山	須坂市	一色 正次

第十八回 一茶ゆかりの里俳句大会

席題 特選句

秋色

特選

木原 登 先生選

秋色の深みゆく中夫逝きぬ
 離れ家に一茶を偲ぶ秋の色
 野辺の径一歩一歩に秋の色

伊藤 庚申子 先生選

秋色の一茶の離れ家蓑脚絆
 秋色のマラソンランナー途切なし
 離れ家の淡き日差しや秋の色



嘱目

特選

片桐 嘉弘 先生選

離れ家の丸窓一つ一位の実
 ちちろ鳴く一茶旧居の蓑の中
 離れ家の村木一樹小鳥来る

水上 孤城 先生選

ちちろ鳴く一茶旧居の蓑の中
 行く秋を追ひゆく山の風と水
 秋日濃し一茶離れ家こんもりと



第十七回 一茶ゆかりの里 小中学生俳句大会特選句

応募総数 2026 句
小学生 1120 句
中学生 906 句
審査員 上高井教育会俳文学同好会会員、
高山小・中学校国語主任 他

小学校一年生

あさがおはおそらのいろににているよ

小学校二年生

いそぎ足おうちのいちご赤いかな
さくらんぼたべるとあまいもう一つ
かぶと虫ぼくが見つけた大ものだ

小学校三年生

せんぶうきみんなに風をおとどけ中
ひまわりが空に向かってせのびする
ひまわりがわたしを見ててわらってた
しろつめくさわたしのとくいなくびかざり
すいかたべしゃかししゃか音するごご三時
ふうりんがかぜといっしょにおどつて

小学校四年生

きもだめしどきどきしながら一歩ずつ
木の上のせみのなき声聞きあて
かぶと虫つのがじまんのオスみつ
みずばしう白いドレスの女の子

小学校五年生

つゆあけずすぶりのバットに雨ポツリ
えだまめの仲良いおうち三兄弟
ふうりんの音色をきいてひるねかな
われわれはうちゅう人だと扇風機
雨上がり夏の天空竜の橋

小学校六年生

うとうととせみなく声は夢の中
山の木々新緑になり命燃ゆ
ひらひらと桜の花が手のひらに

中学校一年生

風景が染まりゆくかな草紅葉
バラの花風をかすめて散りそむる

中学校二年生

空青く飛行機雲が描く夏
夏休み部活終わりの水遊び

高山小学校

片桐 美奈

高山小学校

山崎 海琉

豊洲小学校

吉池 優花

豊洲小学校

坂口 大和

豊洲小学校

住家 愛理

豊洲小学校

原 優太

高山小学校

増田 花乃

高山小学校

畔上 涼

森上小学校

佐々木真愛

篠ノ井西小学校

月岡 桃子

豊洲小学校

應永 佳花

豊洲小学校

高橋 尚真

高山小学校

鎌倉 一羽

高山小学校

渡邊 琉晟

真島小学校

岩倉 康生

真島小学校

関口夏海穂

昭和小学校

鈴木 雪乃

高山小学校

浅川 達海

栗ガ丘小学校

小林 正典

豊洲小学校

塚田杏香里

高山小学校

渋谷 樹里

高山小学校

宮下 凱地

高山中学校

涌井 明澄

高山中学校

黒岩 芽生

中学校三年生

見あげれば桜と重なる五重の塔
飛行機がかき分け泳ぐ夏の空
願い込め見つめる先に天の川
スーパールのパイナップルから香る夏
大空にひまわり一つ咲きにけり
日をあびて色鮮やかに夏野菜
決意持ちひまわりとともに上を向く
祖母ゆでるひやむぎ量が多すぎて
目が合つて火花がきれいごまかした
おちるなと線香花火とにらめっこ
汗ながしボールと夢をおいかけた
稲刈りの音でとびだす赤トンボ
夏休み勉強課題休みなし

常盤中学校

中沢あかり

相森中学校

大口 元都

相森中学校

黒岩 大椰

相森中学校

竹本 瞭子

墨坂中学校

山際 沙恵

墨坂中学校

市川さくら

墨坂中学校

保科ひな乃

墨坂中学校

片桐実菜子

墨坂中学校

百瀬雄一郎

墨坂中学校

北堀 春奈

墨坂中学校

持田 美優

墨坂中学校

田中 悠真

墨坂中学校

黒岩 侑生

夏休み俳句教室

8月8日、9日、10日



小学生や俳句初心者を中心
に、3日間で28名が参加しまし
た。8日、9日は、元一茶館長
の高野重治先生が、10日は信濃
俳句通信の佐藤文子先生が講師
として、一茶さんの俳句や俳句
の作り方を学び、それぞれ詠ん
だ俳句を発表しました。俳句に
ついて学んだ後は、お昼に一茶
館の玄関前で流しそうめんを行
きました。参加者の皆さんは、そうめんの他にもトマ
トやキュウリなど色々な食べ物が流れてくることに驚
きながらも流しそうめんを楽しんでいました。

こんな句をつくりました！

れいそうこおいしすいが入ってる 黒岩 颯太
蟻たちのプールができたよ水たまり 北沢貴美絵
りんごさん真っ赤にうれておいしそう 豊原 光優

平成二十六年 度

一茶ゆかりの里 投句箱 入選句

(四・五・六月)

選者 荒井 智雄 先生

特選天 春シヨールふはり浮かせて退院す

特選地 朝市の姉さかぶりの声涼し

特選人 妻も下戸そと根本へ花見酒

入選 味噌玉ののれんの蔵や燕来る

花の下歩きつかれし幼児靴

庭作り親子揃ひの夏帽子

崑寿迎へ俳画に挑む夕桜

無遠慮に庭から居間へ蟻の道

イワツバメ青い空まで飛んでつた

ほーほーと農婦追ひやる稲雀

(七・八・九月)

選者 勝山 久峰 先生

特選天 老若の和して更けゆく盆踊り

特選地 親に宛て孫の書きたる避暑便り

特選人 稲雀追へば群れ増し舞ひ戻る

入選 風鈴の鈴の音なごむ昼下がり

青田風一茶ゆかりの居をたずね

予定なき日の少なきや零余子飯

撮る景にいつも揺れゐるすすきかな

雨上がり墨絵のような霧の山

老人会皆童心や夏の旅

戦時苦を知らぬ子集ふ敗戦日

唐松になりきってゐる油蟬

捨てかねし一句に執着秋の夜

群馬県 田村 洋子

愛知県 平野 辰美

長野市 青木 武明

須坂市 鈴木 保江

群馬県 滝沢 照香

群馬県 岡村妃呂子

群馬県 竹渕てる子

群馬県 山口 岩美

中野市 関 稜

長野市 阿部 仲雄

岐阜県 高木 康允

群馬県 滝沢 照香

岐阜県 塚田ヤエ子

長野市 北澤 隼

長野市 近藤 藍

群馬県 清水 一静

高野 悠子

竹渕千恵子

竹渕てる子

竹渕てる子

田村 洋子

平野 辰美

一茶の信州高山四季巡り

作詞 松宮 忠
作曲 小林 佳容

一、信州高山久保田家訪ね

お茶を頂き和みの俳句

高井のや只一本の花の雲

坪井の桜に春を詠み

庭の雀と戯れて

過ごす束の間童心に

二、信州高山雷滝に

己清めて心の俳句

滝けぶり袂に這入る袷哉

飛び散る飛沫に夏を詠み

昼寝した後縁側で

甘い西瓜に舌鼓

三、信州高山出湯に浸かり

体解して癒しの俳句

門の月ことに男松のいさみ声

三日月眺めて秋を詠み

明日の旅路を思う時

音色切つなや虫の声

四、信州高山囲炉裏を囲み

酒の肴に自慢の俳句

松ありて又松ありて餅の香

突きたて餅食べ冬を詠み

深い情けに絆されて

人の道理を学びとる

新規職員

あいさつ



学芸員 篠原しずか

今年度より学芸員として勤務をさせていただいています。

高山村の赤和出身ですが、高山村の歴史や文化、小林一茶について高山村で育ちながらも知らないことばかりであったと痛感いたしました。

一茶館は私が小さい頃から何度も訪れている博物館ですが大人になり、

一茶と高山村を歌った曲ができました。
youtube で視聴できます。「信州高山一茶の四季巡り」で検索してください。